



2023年2月20日

各 位

会社名 株式会社ツバキ・ナカシマ
代表者名 取締役兼代表執行役社長CEO 廣田 浩治
(コード番号 6464 東証プライム)
問合せ先 IRマネージャー 森田 郁史
(TEL 06-6224-0193)

継続企業の前提に関する事項の注記に関するお知らせ

当社は、本日公表の2022年12月期決算短信における継続企業の前提に関する事項について、下記の通り注記することといたしましたので、お知らせいたします。

記

(継続企業の前提に関する注記)

当連結会計年度において、多額ののれん等の減損損失を計上したことにより連結営業損失となりました。その結果、一部の借入金に付されている財務制限条項に抵触していることから、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当該状況を解消するために、財務制限条項に抵触している借入金について、取引金融機関と期限の利益喪失の権利の放棄について協議を進めております。

しかしながら、今後の事業進捗や上記金融機関等との協議、資金調達の状況等によっては、今後の当社の資金繰りに重要な影響を及ぼす可能性があることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が存在するものと認識しております。

なお、連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を連結財務諸表に反映しておりません。

(継続企業の前提に関する重要事象等)

当社グループは、プレジジョン・コンポーネントビジネスの米州地域及び、リニアビジネスにおきまして、従来、のれん等の前提としてきた将来価値を見直した結果、当連結会計年度において合計13,562百万円ののれん等の減損損失を計上しております。

この減損損失により、当連結会計年度において営業損失となり、当社の一部の借入金の期限の利益に係る財務制限条項に抵触することから、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせる状況が存在しています。

当社グループはこのような状況を解消すべく、コスト（原材料・エネルギー他）インフレの販価への転嫁徹底・収益性の悪い製品からの撤退を含めた総見直し、並びに採算性が不十分なプレジジョン・コンポーネントビジネスの米州地域やリニアビジネスに経営リソースを集中し、ものづくりを軸にビジネス全般を整理・改革し、稼ぐ力の回復を実現いたします。

また、中期経営戦略の成長戦略：セラミックビジネスの成長加速、メディカルデバイスビジネスの収益向上・販路拡大、アジア市場のプレゼンス拡大にも投資を継続し、安定的な利益の創出に取り組んでまいります。

併せて、欧州ローラービジネスの構造改革も計画どおりに完了し、大幅な競争力強化を通じビジネスの質を高めるとともに、競争力を獲得することができました。今後は、欧州及び北米を視野に入れたグローバルローラービジネスの構築を目指してまいります。

以上